

○令和4年度第3回本匠地域振興審議会 会議資料

政策7 地域が輝くまちの創生

施策4 よし 最高の水あそびを 用意しよう！ ～本匠地域～

1. 現状と課題

【前期計画】	【後期計画 (案)】
<p>佐伯市の水源である清流番匠川は、この本匠地域の誇れるところであり未来の佐伯市民のためにもこの自然環境を守る必要は大いにあります。しかしながら、自然災害から人々の生命財産を守るためにも、自然との共生を保ちながら整備を行う必要があります。</p> <p>主たる産業が農林業である本地域は、農林業の衰退により、生産年齢人口の流出が続き、人口減少と高齢化が進んでいます。人口減少により、買い物をする店舗やバスの運行本数が減少し、生活の利便性を失いつつあります。生活の利便性を維持するためにも、交通網及び公共交通体系の整備、インターネットなどの情報インフラを整えることが必要です。また、高齢化により自治活動を維持することが困難になりつつある地区もあり、移住定住に取り組む必要があります。</p>	<p>佐伯市の水源である清流番匠川は、この本匠地域の誇れるところであり未来の佐伯市民のためにもこの自然環境を守る必要は大いにあります。しかしながら、自然災害から人々の生命財産を守るためにも自然との共生を保ちながら整備を行う必要があります。</p> <p>産業構造の変化により、主たる産業である農林業の衰退に伴い、生産年齢人口の流出が続き、人口減少と高齢化が進んでいます。生活の利便性については、公共交通体系の整備などにより維持されましたが、人口減少と高齢化により自治活動や集落での生活を維持することが困難になりつつある地区もあり、生活の質の向上に取り組む必要があります。</p>
<p><修正点とその理由></p> <p>前期計画で課題とした公共交通体系や情報インフラ整備は、コミュニティバス運行整備や情報ネットワーク光化等の整備により、生活利便性は一定程度維持されたため、後期計画から削除する。</p> <p>当地域の主要な産業である農林業の衰退の主な要因を、全国的な産業構造の変化による生産年齢人口の流出が続き産業の担い手が減少したことと捉えて、後期計画の文言を修正する。</p> <p>また、少子高齢化により小規模集落での自治活動や共同作業などが困難になりつつあり、集落活動支援の取組を念頭にした文言に修正する。</p> <p>移住定住の取組は後期計画でも取り組むが、地域住民が人間らしい生活により幸福を感じることできるような取組に重点を移していく必要がある。</p> <p>※今後は、地区で行う共同作業への支援や生活用水施設の維持、住民同士の交流の場づくりといった、地域住民が地域で自分らしい生活を送り続けるための支援に取り組む必要性があると考えています。</p>	

2. これからの基本方針

【前期計画】	【後期計画（案）】
<p>ア 清流番匠川を始めとする自然環境とそこに住む人々が自然と共生できるように環境を整備し、災害に強い地域にします</p>	<p>ア 清流番匠川を始めとする自然環境とそこに住む人々が自然と共生できるように環境を整備し、災害に強い地域にします。 ⇒継続</p>
<p><修正点なし></p>	
<p>イ 自然環境や地域文化を活用した観光産業や地場産業等が活発な地域にするとともに、IT関連企業などを誘致し、多様な働き方が可能な地域に取り組みます。</p>	<p>イ 自然環境や地域文化を活用し、観光産業や地場産業等が活発な地域にするとともに、多様で柔軟な働き方が可能な地域に取り組みます。⇒修正</p>
<p><修正点とその理由></p> <p>IT関連企業などの誘致は、現状では難しいため後期計画では項目を削除する。 ※前期計画を構想している時点では、使用していない既存施設や空き家への企業誘致を念頭にしていました。しかし、既存施設の老朽化や空き家の確保困難などから実現性に乏しく、企業誘致による多様な働き方への取組は、少子化・労働人口の流出など、地域の現状から難しいと考えています。また、委員から、年齢を感じずに働ける環境づくりや高齢者が働くことによる生きがいつくりが必要といった意見が出されており、文言を一部修正しました。</p>	
<p>ウ 主要道路の整備を行うとともに公共交通体系を見直し、移動が容易にできるようにします。また、情報システムなどのインフラを整備し、利便性の高い生活ができる地域にします。</p>	<p>ウ 主要道路の整備を行い、生活利便性の高い生活ができる地域にするとともに、高齢化の進む地域を多様な主体による見守り等により支援することで、住み慣れた地域で安心し、生きがいを持って暮らせる地域とします。⇒修正</p>
<p><修正点とその理由></p> <p>後期計画では、コミュニティバス路線整備や情報インフラ整備の完了により項目を修正する。 ※生活利便性とは、「日常生活を行う上での住宅の立地の便利さの尺度」といわれています。本匠地域では、公共交通網や情報インフラが概ね整備されており、今後、高齢者などがこれらのインフラ設備を利用することで、不安を感じずに生活できる地域を目指す必要があると考えます。また、地域を見守り支えるため、行政、社協、民間、ボランティアなど多様な主体と連携した取り組みが必要と考えます。</p>	

3. 主な取組

【前期計画】	【後期計画 (案)】
ア 人と自然が共生した環境の整備 ＜修正点なし＞	ア 人と自然が共生した環境の整備⇒ 継続
(ア) 清流番匠川を維持するための自然環境に配慮した整備 ＜修正点なし＞	(ア) 清流番匠川を維持するための自然環境に配慮した整備⇒ 継続
(イ) 防災減災に配慮した災害に強い環境整備 ＜修正点なし＞	(イ) 防災減災に配慮した災害に強い環境整備⇒ 継続
イ 地域の特性をいかした特色ある地域産業の推進 ＜修正点なし＞	イ 地域の特性を生かした特色ある地域産業の推進⇒ 継続
(ア) ホテルなどの自然環境を活用した観光産業、地場産業の推進 ＜修正点なし＞	(ア) ホテルなどの自然環境を活用した観光産業、地場産業の推進⇒ 継続
(イ) スポーツツーリズム（サイクリング、クライミング、カヌーなど）や地場産業（しいたけ、お茶など）の観光産業の推進 ＜修正点なし＞	(イ) スポーツツーリズム（サイクリング、クライミング、カヌーなど）や地場産業（しいたけ、お茶など）の体験観光の推進⇒ 継続
ウ 道路、交通体制、情報システムなどのインフラ整備 ＜修正点とその理由＞	ウ 道路整備や住み慣れた地域で安心し、生きがいを持って暮らせる地域づくり⇒修正
<p>前期計画で主な取組とした、交通体制、情報システムなどのインフラ整備は概ね完了したため、後期計画では、道路整備や小規模集落での生活維持を目的とした取組に修正する。</p> <p>※高齢化の進む地域で、暮らし続けるために必要な、生活インフラの維持・整備や住民福祉の向上、地域文化の保存・継承などにより、住民が安心や生きがいを感じることのできる地域づくりが必要と考えます。</p>	

<p>(ア) 県道三重弥生線の整備の実施(波寄一小半区間の早期改良)</p>	<p>(ア) 県道三重弥生線の整備の実施⇒修正</p>
<p><修正点とその理由> 後期計画では、県道三重弥生線の沿線全域を対象に改良・整備にむけた取組みを行うといった内容に文言を修正する。 ※波寄一小半区間のみならず、県土木事務所と連携して県道三重弥生線沿線区間の整備などに取組みます。</p>	
<p>(イ) コミュニティバスを活用した利便性のある公共交通体系⇒削除</p>	<p>(イ) 安心して暮らせる地域づくりにつながる小規模集落の見守り等⇒新規</p>
<p><修正点とその理由> 地域住民の意見である「地域で支える福祉活動の推進」を後期計画に反映し修正する。 ※高齢化の進む本匠地域では、集落や高齢者を支える見守りや県の事業として行う小規模集落応援隊などのボランティア活動、高齢者の交流の場づくりといった住民が安心できる地域づくりの必要性が高まっています。</p>	
<p>(ウ) 情報を発信しやすい環境を整備(観光スポット等にWi-Fiを整備し携帯電話の不感地域を解消)⇒削除</p>	<p>(ウ) 地域文化をいかした持続可能な地域づくり⇒新規 ※委員からの意見により、「持続可能な地域文化をいかした地域づくり」に文言を修正。</p>
<p><修正点とその理由> 地域特有の伝統・文化の保存・継承による地域の持続活動を後期計画に反映する。 ※歴史ある地域の伝統芸能やホタル、上津川かかし祭などを地域特有の文化と捉えて、保存継承に取組、持続可能な地域づくりを行います。</p>	
<p>(エ) 本匠振興局庁舎の整備⇒削除</p>	
<p><項目削除の理由> 令和4年度に本匠振興局新庁舎が完成するため、主な取組から削除する。</p>	

4. 重点プロジェクト

<p>【前期計画】 自然と遊ぶ本匠プロジェクト</p> <p>清流番匠川などの豊かな自然（水遊び・ホタル観賞など）や地場産業（しいたけ・お茶など）をいかした観光ルートを構築するとともに、サイクリングやクライミング、カヌーなどのスポーツツーリズムを推進します。また、既存の建物を利用して、企業などを誘致し、シェアオフィス・宿泊施設・カフェなども設け、交流人口の増加を目指します。</p> <p>これらの計画により観光客の増加と地域の人々との交流を進め、地域の活性化を図るとともに、地場産業の活発化に繋がっていきます。</p>	<p>【後期計画（案）】 自然と遊ぶ本匠プロジェクト⇒継続</p> <p>清流番匠川などの豊かな自然(水遊び・ホタル観賞など)や地場産業(しいたけ・お茶など)を活かした観光ルートを構築するとともに、サイクリングやクライミング、カヌーなどのスポーツツーリズムやアウトドア活動を推進し、交流人口の増加を目指します。</p> <p>これらの計画により観光客の増加と地域の人々との交流を進め、地域の活性化を図るとともに、地場産業の活発化に繋がっていきます。⇒修正</p>
<p><修正点とその理由></p> <p>※後期計画では、前期計画で取り組んだ、豊かな自然や地場産業をいかした観光ルートの構築やスポーツツーリズムの推進に引き続き取り組む。また、近年当地域で多く見られる、テント泊や焚火といったアウトドア活動を、安全に地域住民の理解を得ながら推進し、交流人口の増加につなげる。</p> <p>なお、施策として実現が難しい「既存施設を利用した企業などの誘致やシェアオフィス、カフェなどを設け」という文言を後期計画では削除した。しかし、委員から「地域内外を問わず人が交流できる場づくり」が必要といった意見があり、各種団体などと協力した取り組みを模索する。</p> <p>また、観光・スポーツツーリズム・アウトドア活動による地域活性化を行うためには、観光客の受け皿として地場産業の持続化が必要であり、観光面での連携を促進する必要がある。</p>	

○目標指標

○目標指標（前期計画）	○目標指標（後期計画 案）
観光等客数の増加 基準値（平成 28 年度 2016 年度）25,000 人 目標値（令和 4 年度 2022 年度）40,000 人	観光等客数の増加 基準値(令和 3 年度 2021 年度) 21,000 人 目標値(令和 9 年度 2027 年度) 30,000 人
<p>＜目標指標についての考え方＞</p> <p>総合計画や重点プロジェクトの成果を分かりやすく数字で示すためには、観光等客数が最も理解しやすく取組の成果を図りやすい数値である。後期計画においても、引き続き「観光等客数の増加」を目標指標とする。</p> <p>後期計画では、本匠地域の現状から「観光等客数の増加」の目標値を 30,000 人と設定し、基準値を令和 3 年度実績値 21,000 人として取り組むたいと考える。</p> <p>※計画策定時直近の実績値は、令和 3 年度の 21,000 人であることから基準値としている。</p> <p>※令和 4 年度の実績値は予測値であるため今回は考慮しないものとする。</p>	

政策7:地域活性化

施策④ よし 最高の水あそびを 用意しよう! ~本匠地域~

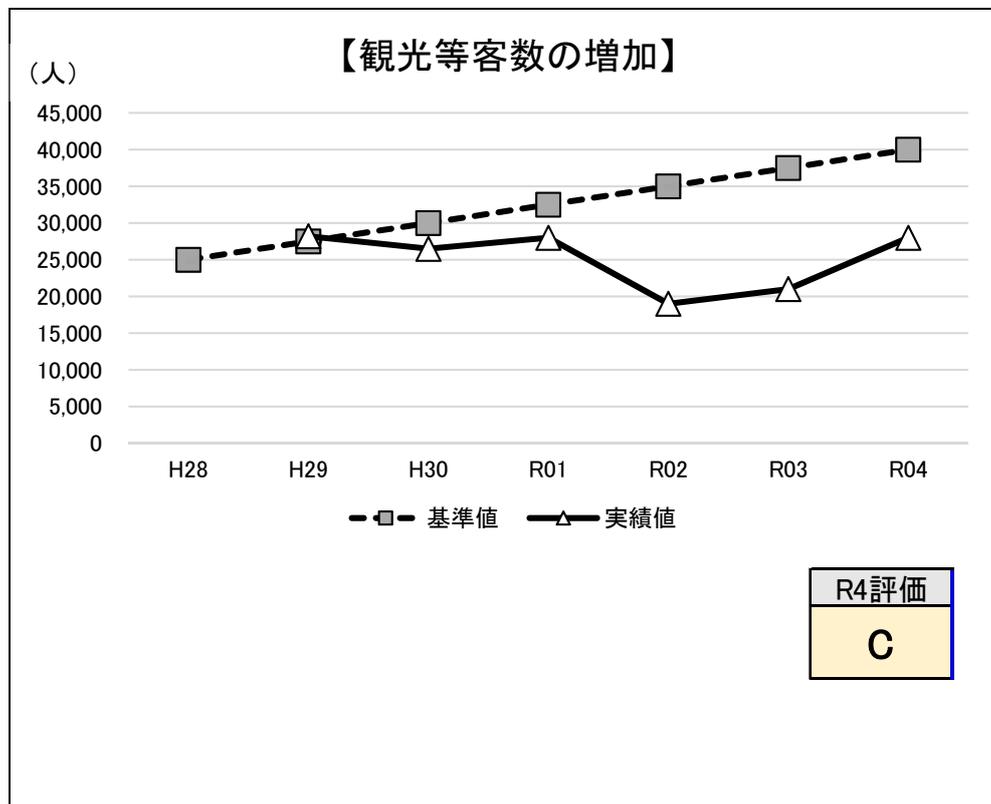
【目標指標:観光等客数の増加】

目標値

年度	H28	H29	H30	R01	R02	R03	R04
基準値	25,000	27,500	30,000	32,500	35,000	37,500	40,000
実績値		28,200	26,500	28,000	19,000	21,000	28,000
評価	—	—	B	B	C	C	C

R4 評価
C

(単位:人)



備考 R2年度、R3年度は、数値上は「D」だが、コロナの影響を考慮し「C」とする。

